

中部／食R激戦区の事業展開

堆肥化も拡大路線へ

愛知県／三重県

中部地域は食品リサイクル事業が盛んな地域として知られ、食品リサイクル法に基づく「登録再生利用事業者」の認証件数でも、愛知県が16件、三重県が9件（2012年2月29日現在）と全国でトップクラスの認定数を誇る。激戦区ゆえ、最新の事業展開が垣間見える同地域。近年は事業系一般廃棄物のリサイクルを強化する事業者が相次いでおり、その事例を紹介する。

環境テクシス

液体飼料化事業を強化、一廃は日量1tへ

食品残さの肥飼料化 高橋慶社長、☎053-3-87-5512
事業を展開する環境テクシス(愛知県豊川市、は3月28日付で、愛知

飼料化施設の外觀



は、スーパー等の液体飼料のニーズが高まったことから、既存設備の処理能力を1日当たり約25tから同55tに引き上げるなどして、事業強化の体制を整えた。同社はこれまで、産廃である食品工場等からの有機汚泥・食品残さの飼料化で実績を重ねてきた。設備として容器分別機・破碎機・発酵タンクなどを備え、原料の性状に同じの構築に参加。取引する養豚農家の数が増え、原料の性状に同じの構築に参加。取引する養豚農家の数が増え、原料の性状に同じの構築に参加。取引する養豚農家の数が増え、原料の性状に同じの構築に参加。

豊川市の一般廃棄物の液体飼料(リキッド)の原料として活用する方針だ。対象となるのは、事業所から発生する食品残さ。今後、スーパーや給食センターなどへの営業を強化し、当面1日当たり約1tの

一廃受け入れを目指す。今回の許可取得で「地域ゼロエミッション関係施設等整備事業」への採択がある。